



有料職業紹介 つしま紹介所 (0567) 26-1281
 訪問介護 ナイス・ケア (0567) 26-3699
 通所介護 ナイス・デイ (0567) 26-1282
 宅老&託児 ナイス・ホーム (0567) 26-1282
 E-mail info@s-o-s.co.jp
 ホームページ http://www.s-o-s.co.jp
 (有)サポート・ワン・サービス 愛知県津島市愛宕町4-113 〒496-0036
 代表TEL:(0567) 26-3921 / FAX:(0567) 26-3922

vol. 62 (平成17年10月09日発行)



まいったなあ(笑)
 ナイス・デイ初の誕生日プレゼントを作りました。なんと利用者さんの「似顔絵」です。結構似てるでしょ！このプレゼント、実行し始めてからまだ2ヶ月足らずです。利用者の皆さん！誕生日が近づいたらおめかしとかないといかんですよ~。どんな顔してようが、さらっと書いてちゃいますからね。自分の誕生日を楽しみにして下さいな

私が書いてます。

いろんな場所へお出掛けしています。

天王川公園でたこ焼きピクニックを楽しんだり、東公園で沢山歩いた後に喫茶店で休憩したり、萩寺で花見しながらお茶したり・・・とにかく、気候の良い今の時期、いろんな場所に行きたいですね。

ナイス・デイ利用状況(定期利用者数)

月	火	水	木	金	土	日
8名	7名	10名	5名	8名	6名	9名



私のおかあさん ~ 第10章 ~

注:このコーナーに掲載される話はスタッフの家族の実話です。

おかあさんが妹夫婦と同居を始めてから早5年。当初は杖で歩いていたが、だんだんとおぼつかなくなり、今では車イスを移動手段に使っている。当然、行動範囲も狭まり、動かない分、食事量も少なくなってきた。ある日、「何故、跡取りがいるのに親を看ないんだ!!」と妹の夫に激怒された。妹の夫は長男。遠方に住む母親がいる。おかあさんとの同居をしていく中で、自分の母親の老化も心配になっていくのは当然のこと。いつかは、自宅に呼び寄せて一緒に暮らすつもりでいると話を聞いたことがあった。それなのに、わたしたち兄弟といえば、「妹夫婦との同居が上手くいっているから・・・」と安心しきってしまい、徐々に、妹夫婦との同居が当たり前の状態になってしまっていた。・・・怒鳴られても、何の弁明もできなかった。しかし、その時の一言がきっかけとなり、遠くに住む姉も呼び、兄弟6人が久しぶりに揃い、おかあさんの今後のことを真剣に相談する機会を作ることとなった。兄弟たちの中で、誰がおかあさんを引き取り世話をすることができるのかを考えようかと話したが、住宅事情、おかあさんとの相性など、その他色々な事情を理由にほぼ全員が「同居は難しい・・・」という返事が出てしまう始末。「自分の親なのに、いざとなったらなぜ看れないのか・・・」自分たちが情けなくなり、涙がとめどなく溢れてきた。結局、自分たちでは結論が出せず、「おかあさんがどのような考えをしているのか聞いてみよう。」ということになり、兄弟で尋ねた。ところが、おかあさんはこの状況に気付いていたのか、どの子供の家にいきたいではなく、施設に入ることを決意していた。それからというもの、「ここなら安心して任せられそう」という施設がどこにあるか・・・の施設探しが始まった。そして、皆が再度集まり、納得した上で、入所の申し込みまでを終えた。そんなこんながあっても、妹夫婦は、おかあさんが施設に入所するまでは一緒に暮らそうと申し出てくれた。一時は兄弟姉妹の関係が気まづくになってしまうかもと悩んだりもしたが、今ではあの言葉を書いてもらえたことを感謝している。あの時、妹の夫に怒鳴られなかったら、兄弟全員でおかあさんを看ていると思い込んでいたかもしれない。このことは、介護者の気苦労は、私のように外から関わる立場の者には絶対に分からないのだろうと実感させられた出来事だった。

ナイスな手作業

~ マラカス作り ~

よく歌を唄うので、聴く人も楽しく参加できるように、空き缶を利用して「マラカス」を作りましたよ。利用者さんのお手製です。

空き缶の周りを布で覆って手縫いします。



綺麗なマラカスの出来上がり~

ナイスな勉強会・・・「異性」

- ・「ようも、あんなこと載せたなあ。手段を教えとるようなもんだぞお。」と心配してくれる人
- ・これみよがしに介護スタッフの嫌がることを行うようになった人
- ・「あんなことやる人がおるもんだなあ。誰なんだあ?」と感心しながら誰がやったことなのか聞こうとする人
- ・「実は、私も ことをされたことがあるんです・・・。」と報告を始めた人

先月の通信を読んで、利用者さんやスタッフなどからの反応はそれぞれです。が、今昔関係なく事実です。今回の「異性」間で発生する事例で考えると、単純に嫌がらせをしているだけの方、そういった行為が好きという方が大半だと思います。また、生活の中で生じる何かしらの不満や不安を紛らわすためや介護スタッフとの関わりを楽しくしたいという勝手な想いでワザと話題にするなど、他に理由がある方も少なくないかもしれません。しかし、もし後者だとしても、異性間での問題が生じたとき私たち介護スタッフはどうしたらよいのでしょうか。よく耳にするのは、「きちんと相手に断ること。」「そういった雰囲気にならないように注意する。」「報告を行い、事業所から当事者に注意を持ちかける。」などです。本当にそれで解決するのでしょうか?現場の介護スタッフは、安心して業務に就けるのでしょうか?実際には「相手にきちんと断る」という瞬間すらなかったり、ほぼ脅迫的に見えることだって少なくありません。いずれにしても利用者さんの自宅等、密室でおこなうことなので、証人もなく、お互いの捉え方もさまざまです。ここでは当事業所で、今まで介護スタッフに伝えていること・実行したことを1例ずつ紹介します。伝えていること 「利用者さんは介護や生活援助を必要とする人ではあるが、そういった行為をしようとしたときの相手は弱者ではない。何か起きそうな気配がした場合、遠慮なく突き倒して逃げなさい。外に出たら人目のある場所から事業所に電話を下さい。後は事業所で対応します。」実行したこと 今後、同じような行為を迫った場合、命に関わる・関わらないに関係なく、即刻サービス提供の中止、及び、警察への通報・身内への報告をすることを条件にケアマネージャーさんも同席の上で話し合いの場を持ちました。

介護スタッフは、性的な気持ちを解消するための相手ではありませんし、利用者等の立場を利用してやっていいことではありません。「年齢に関係なく、本当にそういった行為が好きで満足したいのであれば、ヘルスやソープランドなどのお店に足を運んで欲しい。」と真に願います。私たちは、安心できる介護サービスを提供させていただきたいだけなのですから。

次回...「ヘルパーにもできる(?)医療行為」

心に残る “あの人の一言”

- ◆「ヘルパーさんに来てもらうことにしたよ」と娘に言われて最初はとっても不安だったけど、今となっては、娘が増えたようで嬉しいわ!
- ◆「カレンダーにヘルパーさんのマークをつけて、その日は私も体を動かさなきゃと、リハビリの日だと思っているのよ。」(頑張りましょ!)
- ◆よく無理難題を言っては周りの人たちを困らせている利用者さん。七夕の日、短冊に願い事を書こうとしたとき「自分じゃあ書けんで、あんた書いてえ。」と頼まれました。「なんて書きますか?」の問いかけに「いつも世話になっとるみ~んなにありがととお礼の気持ちを書きたい。」
- ◆ご主人の靴下のかかとが破けていることに気付く「そんなの履かないでくださいな。」と利用者さん。「この穴のおかげで通気が良いから水虫にならないぞお(笑)気にするな。」とご主人が即答。(とてもやさしい返答に驚きました。)

編集後記

最近、上は90代~下は40代と、介護を必要とする年齢にも幅が出てきています。先日、NHKで放映された「ハルとナツ」というブラジル移民をされた人々のドラマ(全5回の連夜放送)を観ました。(1回、見逃しましたが・・・)今の65歳~90歳くらいの人たちが必死に生きてきた時代の話ですよ。このドラマを観ようと思ったのは、介護を必要とし、サービスを利用して下っている方々の、生きることに對する姿勢や言葉の重みが、世代によって全く違ってきていると感じていたからです。今、65~90歳代くらいの利用者さんがもつ、あの頑固さや明るさ、また、その存在感にはいつも圧倒されます。もし、私が脳梗塞などの病気を患い、不便な生活を余儀なくされたら・・・前向きに・頑固に・明るい生活を送れるよう努力ができるでしょうか。そして、周りの人にやさしい言葉がかけられるのでしょうか。豊かな日本で育ってきた私たちの世代が年老いたときを想像すると、少し怖い気がしました。(H)

7~12月号は心に残った“あの人の一言”でお送りします。